

心理学史の
複線径路
 [第6回]

ロシアの心理学史 (下) — 君の名は希望。ナヂェージダ・ニコラーエヴナ・ラディーギナ・コーツ
 サトウタツヤ

立命館大学文学部教授・研究部長。副題はもちろん、乃木坂46とは無関係。*European Pioneer Woman in Psychology*のような本を知ると、海外の心理学史の蓄積の凄さを思い知らされます。今の日本ではこういう発想は出ないなあ。



前回の記事の最後の写真はロシア心理学の黎明期の人々の写真でした。その中に、一人、女性が立っていたことを覚えているでしょうか？ 今回は前回と少し異なる写真を紹介しましょう。中央にいるのがロシアにヴント流のドイツ実験心理学を導入したチェルパノフ (Georgy Chelpanov, 1862-1936) です。1923年頃に撮影されたと思われます。



あるウェブサイトは本日の主人公である彼女のことを「スリムなウエスト、ピロードのような茶色い目、ブロンズを見事に編み上げた三つ編み、をもつ比類無き美しさの女性。その甘く優しい面差しは美の魂を鏡に映したかのようである。彼女の名は希望にふさわしい」と表現しています。つまり、ナヂェージダ・ニコラーエヴナ・ラディーギナ・コーツ (Ladygina-Kots, Nadezhda Nikolayevna; 1889-1963) の「ナヂェージダ」は希望という意味を持っているということです。

ナヂェージダの写真を探してみるといろいろな写真があり、先のウェブサイトの記述も偽りなしと思えるのですが、一緒に写っている



ものがいずれも一風変わっています。

彼女こそ、ロシアにおいて動物心理学者・進化心理学者として活躍した人物です。ラディーギナ家の娘として生まれた彼女は、教育 (学) に関心をもち、その授業の一つとして心理学に出会いました。それ以上に重要なのは、夫となるコツ (Alexander F. Kots) の授業に出席したことでした。二人は1911年に結婚し、文字通り、二人三脚で研究に打ち込んだのでした。1913年には現在も残っているダーウィン博物館の前身をモスクワに設立しました。夫婦揃っ



と一緒にとった記念写真にもオウムや犬が登場しています。

ナヂェージダが1935年に出版した本は、チンパンジーの幼児と自身の子どもの詳細な観察に基づく比較心理学的研究です。最近になって (2002) オックスフォード大学出版から英語版が出版されるなど、彼女の業績には注目が集まっています。

今回、ナヂェージダの身元を明らかにするにあたって、イリーナ・ミロネンコ先生 (Irina Mironenko; Pushkin Leningrad State University) と中村和夫先生 (橘大学) にお世話になりました。ネットワークのありがたさを実感しました。

文献

- Ladygina-Kohts, N.N. (2002) *Infant chimpanzee and human child*. Oxford: Oxford University Press. Originally published in Russian in 1935.
- Mironenko, I.A. (2010) Nadezhda Ladygina-Kots: A Russian woman pioneer in evolutionary psychology. In Ed. by H.Gundlach, R.Roe, M. Sinatra & G.Tanucci(Eds.). *European Pioneer Woman in Psychology*. Milan, Franco Angeli Pub. pp. 115-124.

参考 URL

The Age of Darwin Museum
<http://www.darwinmuseum.ru/eng/?dir=&more=history>